

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第6学年 「国語（光村図書）」

122時間（7C）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
1	Aエ 知・技(1)ア	言葉の準備運動	つないで、つないで、一つのお話	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「つないで、つないで、一つのお話」は、状況によって導入で扱うととし、2つの詩を読んで感じた春の景色を伝え合うことを中心の活動とする ・ニュースの書き留め方を紹介し、継続的に取り組ませていく
	知・技(1)ケ		詩を楽しもう		
	Cイエ 知・技(1)ケ	1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう	帰り道	4	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情の変化や人物像について、描写を基に捉えることを心の活動とする ・「地域の施設を活用しよう」では、情報収集の仕方について指導する。
	知・技(3)オ		地域の施設を活用しよう		
	知・技(3)ウ		漢字の形と音・意味	1	・設問は家庭での課題とし、後日、確認を行う。
	Bア 知・技(1)オ		春のいぶき	-	・P.76「夏のさかり」で扱う
	Aエ 知・技(1)カ		聞いて、考えを深めよう	-	・取り扱い時期を★に変更する
知・技(1)エ	漢字の広場①	-	・①②③をまとめて扱う。		
2	書写	2 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを發表しよう	字形	3	・漢字の部分同士の位置や大きさの関係を意識させる。
			笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 〔情報〕主張と事例	7	・「〔情報〕主張と事例」を導入で取り扱い、教材文について、筆者主張と、それを支える事例を捉えることを中心の活動とする
3	知・技(1)イ Bオ 知・技(3)イ	話し言葉と書き言葉 たのしみは	話しのしめ	1	・それぞれの特徴を理解させる
			たのしみは	2	・短歌を整える時にどんな工夫をしたのかについて共有する
4	知・技(1)カ 知・技(3)ア 知・技(2)イ	文の組み立て 天地の文	文の組み立て	2	・主語と述語の関係を理解させる (参考：県教委オンラインサポート授業)
			天地の文	1	・音読することを中心の学習とする
5	Bエオ 知・技(1)カ Bア 知・技(1)オ	私たちにできること 夏のさかり	私たちにできること	3	・テーマは教師側でいくつかを提示し、記述は家庭での課題とし、推と共有を中心の活動とする（参考：県教委オンラインサポート授業「案ずる文章を書こう」）
			夏のさかり	1	・春や夏に関する言葉がたくさんあることを理解させ、語彙を豊かにする ・学校行事等と関連して、夏の便りを課題とすることもできる
6	Cオカ 知・技(3)オ Cエ 知・技(1)ク Aオ 知・技(1)オ	私と本 森へ せんねん まんねん	私と本 森へ	3	・「森へ」は、一読させて伝えているテーマを確認することとし、ブックトークの流れを捉えさせる ・ブックトークで紹介する本については、事前に選んでおくように指しておく
			せんねん まんねん	1	・表現の工夫に着目させる
7	知・技(1)カ 知・技(1)オ 知・技(1)エ	いちばん大事なものは 利用案内を読もう 熟語の成り立ち 漢字の広場②	いちばん大事なものは	2	・立場の違う多くの人の意見を聞いて、自分なりに納得できる考えをつけ、自分の考えに生かすことを中心の活動とする
			利用案内を読もう	3	・説明書や広告、パンフレットなど、様々な形式の違いがあることを解させ、効果的に使う方法を考えることを中心の活動とする
8	書写	文字の大きさや配列 効率のよい書き方	文字の大きさや配列	3	・用紙に合った文字の大きさと配列に注意させながら、小筆か筆ペン使って書くことを中心の活動とする
			効率のよい書き方	2	・文字と文字とのつながりを意識して書かせる ・点画の間をつなぐ気持ちで書くことで、速さにリズムが生まれることを実感させる
9	Cオ 知・技(1)ク 知・技(3)ウ 知・技(1)オ	3 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう	やまなし 〔資料〕イーハトーヴの夢	8	・表現や構成の工夫に着目させ、作品に描かれた世界を自分なりに捉えることを中心の活動とする
			言葉の変化 秋探し	2 1	・時代や世代によって言葉の違いがあることを理解させる ・時間によっては、俳句や短歌を創作させてもよい
10	Aエ 知・技(1)カ	聞いて、考えを深めよう★	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞いて、考えを深めよう」では、話を聞くときに大事なことにって考えさせ、「みんなで楽しく過ごすために」の話し合いにつなげていく ・議題は教師側で事前にアンケートをとるなどして提示し、進行計画に沿って、目的を明確にした話し合いを行うことを中心の活動とする 	
11	Aアオ 知・技(1)ア 知・技(1)エ	みんなで楽しく過ごすために 〔コラム〕伝えにくいことを伝える			1
		漢字の広場③	1	・本時で①②③をまとめて扱う	
12	書写	筆記具の選択	2	・読みやすい紙面構成を考えて、筆記具を選択して書くことを指導す	

13	Cウ 知・技(3)オ	4 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書く	『鳥獣戯画』を読む 〔情報〕調べた情報の使い方	5	・筆者の考えと表現の工夫を捉えることを中心とした活動とする ・引用、出典、著作権について指導する
	Bイウ 知・技(1)ク		日本文化を発信しよう	4	・伝えたいことに合わせた効果的な文章構成と、絵や写真などと文章を組み合わせた読み手を引きつける工夫を中心に指導する
	知・技(3)イ		古典芸能の世界一演じて伝える	1	・古典芸能についてそれぞれの特色を理解させる
	知・技(1)エ		カンジ博士の漢字学習の秘伝 漢字の広場④	1	・設問は家庭での課題とし、後日、確認を行う ・④⑤⑥をまとめて扱う
14	知・技(3)ア	5 伝統文化を楽しもう	狂言 柿山伏 「柿山伏」について	2	・グループで役割分担するなどして、言葉の響きやリズムに親しみながら音読することを中心に指導する
	Bウカ 知・技(3)オ		大切にしたい言葉	6	・できあがった作品をみんなで読み合い、感想を伝え合い、自分の文のよさを見つけさせることを中心の活動とする
16	知・技(1)エ	書写	漢字の広場⑤	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
	知・技(3)ア		冬のおとずれ	1	・学校行事等と関連して、冬の便りを課題とすることもできる ・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間を
17	Cエ 知・技(1)ケ	6 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう	詩の楽しみ方を見つけよう	1	・詩を読んで感じたことを伝え合うことを中心の活動とする
	知・技(3)ウ		詩を朗読してしょうかいしよう	1	・仮名の由来を知ることが、字の形を整える手がかりとなることを理
18	Cオカ 知・技(1)カ	7 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう	メテアと人間社会 大切な人と深くつながるために 〔資料〕プログラミングで未来を創る 漢字を正しく使えるように 〔コラム〕覚えておきたい言葉	6	・筆者の論の展開や表現のしかたに着目させ、二人の筆者の共通点を
	知・技(1)エ		人を引きつける表現	1	・設問は家庭での課題とし、後日、確認を行う
19	Bアオ 知・技(1)ク	書写	思い出を言葉に	2	・教科書にある物語や詩、文章から心が引かれる表現を見つけ、それ
	Bエオ 知・技(1)ク		今、私は、ぼくは	5	・家庭で事前に教材文を読ませる ・伝える形式を決めて文章を書かせた後、推敲に重点を置いて指導す
20	Aイウ 知・技(1)カ	書写	漢字の広場⑥	5	・資料を使って自分の思いや考えを効果的に伝える表現を考えること
	知・技(1)エ		まとめ	1	・本時で④⑤⑥をまとめて扱う ・6年生のまとめとして、学習したことを生かして卒業記念のような品を書けるように指導する
21	C 知・技(1)ケ	7 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう	海の命	3	・1年間の「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強
	卒業するみなさんへ		中学校へつなげよう 生きる 今、あなたに考えてほしいこと	5	・必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する。 ・まとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることを中心に指

※時間数の精選方法（例）

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にする。で、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「私たちにできること」では、指導事項イの「文章全体の構成や展開を考え」とを中心に指導し、教材「大切にしたい言葉」では、指導事項ウの「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりして書く方法を工夫すること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容であるので、①②③、④⑤⑥をそれぞれ1時間としてまとめて扱っています

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が〔知識及び技能〕（3）「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読み比べが一般的なです。言語活動例を参考にして、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「本は友達」「私と本」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校6学年では年間30時間程度行うものとありますが、光村図書では、パンフレットを作成する「書くこと」の領域の学習において、例えばパンフレットのページの割り付けて文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を15時間（50%）で作成しています）

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。